

憲法しんぶん 速報版

発行 憲法改悪阻止各界連絡会議（憲法会議）

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp

TEL03-3261-9007

ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp

FAX03-3261-5453

2016年9月21日（水）

第667号 本号3頁

強行採決から1年！ 戦争法廃止・改憲阻止に向け、 全国で400ヵ所を超える地域で集会・デモ

国会正門前行動には23,000人

戦争法（安保関連法）の強行から1年となった19日、「戦争法をぜったい廃止に」と、全国400を超える地域で集会やデモが行われました。国会正門前では、総がかり行動実行委員会が呼びかけた「強行採決から1年！戦争法廃止！9.19国会正門前行動」には、2万3,000人が参加しました。

この行動には、4野党の代表が参加し、安保法制＝戦争法の廃止、憲法改定の阻止を訴えました。

民進党の岡田克也前代表は「安倍首相は、集団的自衛権を限定なく行使することは、憲法の平和主義に反しないと言った。とんでもない誤解だ」と指摘し、「そのもとで（改憲の）議論をしていけば、憲法の平和主義が全くおかしくなってしまう。だから私たちは結束しなければいけない」と改憲阻止の決意を述べました。

日本共産党の志位和夫委員長は、「野党と市民の共闘を、総選挙でさらに発展させて、安倍政権を倒し、新しい政治をみんなの手でつくろう」と呼びかけました。

社民党の福島瑞穂副党首は、沖縄の辺野古新基地や高江の米軍ヘリパッドの建設強行を批判し、その上で「戦争法は廃止しかない。野党が提出した戦争法廃止法案が審議される状況と一緒につこう」「沖縄を切り捨てる安倍内閣は退陣を」と呼びかけました。

参院岩手選挙区で野党統一候補として勝利した生活の党の木戸口英司議員は「野党結集の力で当選できた。その歴史的な意義を、身体をもって分かっている」と強調。「政治を変え、みなさんの安全、安心、暮らしを守る。各野党と一緒に生活の党も一丸となって働いていく」と述べました。

次に、実行委員会を代表して3氏が挨拶。戦争させない1000人委員会の清水雅彦さんは、「国会外の活動を全国で展開すれば、戦争法の発動を食い止めることはできる」と語りました。解釈で憲法9条を壊すな！実行委員会の高田健さんは「この1年、全国でたたかいが広がった。今日も、四百数十カ所で行動しています。大変な力です」と強調します。憲法共同センターの小田川義和さんは「昨年は『野党は共闘』とこの場所で声をあげた。今年は『本気で共闘を』といたい」と述べました。

さらに、学者の会、元シールズ、ママの会、弁護士、元自衛官らがマイクを握り、この1年のとりくみを語り、「戦争法廃止に向け、市民と野党の共闘を進めよう」と訴えました。

参加者は、雨が降り続き肌寒い中、「戦争する国絶対反対」「みんなの力で憲法守ろう」と力強くコールしました。「衆院も野党共闘」「戦争に加担しない」「自衛隊員のいのちを守れ」などの手書きのプラカードも揺れました。



衆院憲法審査会長に森英介

・党憲法改正推進本部長は保岡氏に

自民党下村博文幹事長代行は15日、衆院憲法審査会長に森英介・党憲法改正推進本部長に会長就任を打診し、森氏も受け入れました。そして、同じ15日、森英介党憲法改正推進本部長の後任に保岡興治・衆院憲法審査会長とする方針が決まり、安岡氏も受け入れました。さらに、自民党は、審査会筆頭幹事には中谷元・前防衛相を充てる考えです。

森氏は、麻生派で当選9回、法相も務めています。マスコミ報道では、憲法の専門家ではないが、安定感を評価する声もあり、また自民党は26日召集の臨時国会から改憲論議を本格化させたい考えで、民進党など野党との協調路線を重視する森氏を据えるのが適当と判断したようです。

7月の参院選で自民、公明両党など憲法改正に前向きな勢力が改憲発議に必要な3分の2の議席を衆院に続いて確保しました。首相は改憲論議を具体化する環境が整ったとみており、自民党は改憲項目の絞り込みに向けた議論を進めたい考えです。

下村氏は両氏に「臨時国会で（改憲）発議に向けて加速してほしい」と要請しました。

改憲勢力は、7月の参院選で自民、公明両党など憲法改正に前向きな勢力が改憲発議に必要な3分の2の議席を衆院に続いて確保しました。首相は改憲論議を具体化する環境が整ったとみており、自民党は改憲項目の絞り込みに向けた議論を進めたい考えです。

自民に改憲草案棚上げ論 下村氏「封印」を要請

自民党が2012年4月に発表した「憲法改正草案」について、党内で棚上げ論が出始めています。

森英介・党憲法改正推進本部長は15日、下村博文幹事長代行から、衆院憲法審査会長への就任打診とともに、「草案は封印してほしい」と要請されたと記者団に明かしました。草案は現行憲法をほぼ全面的に書き換え、「天皇の元首化」「国防軍の保持」を盛り込むなど、憲法会議そして野党から厳しい批判を浴びていました。

また、安岡氏も下村氏から同様に党憲法改正推進本部長依頼で会談した際に、憲法改正草案を前面に出さずに野党と協力し、改憲項目の絞り込みを目指していくとの方向性を確認したとのことです。自民党憲法改正推進本部長安岡氏は、記者団に「草案は非常に保守色が強い。前面に出せば、野党との調整でネックになる」と語ったマスコミは報道しています。

一方、参院選投開票から一夜明けた11日、憲法改正に向けて「わが党の案をベースにしながら（衆参各院の）3分の2を構築していく。それがまさに政治の技術だ」と述べ、早期の改憲に改めて意欲を示した安倍首相。15日、都内の講演で、「憲法審査会は与野党の枠を超えて議論したい。私が色々言うと進まなくなるので黙っている」と述べたとのことです。

ですから、安倍首相も同意で、改憲草案をベースに進めたいが、今日の情勢ではそうも行かないので、「封印」としてということでしょうか。

断念させよう！！「共謀罪」

新法案、臨時国会は見送りを表明 政府

政府・与党は、「共謀罪」の要件を変えて「テロ等組織犯罪準備罪」を新設する法案を26日召集の臨時国会に提出しない方針を決めたとマスコミが一斉に報道しています。

菅義偉官房長官は16日午前の閣議後の記者会見で、「予定法案の中には入っていない」と述べました。来年の通常国会に提出し、成立を目指す方針とのことです。

すでに何度か、この紙面でも紹介しましたが、政府・与党は同法案を臨時国会に提出して継続審議とし、通常国会で成立させる案を検討していました。ところが、臨時国会の会期は11月30日までで、環太平洋経済連携協定（TPP）承認案・関連法案など他の優先案件に悪影響が出ることを避けるため、野党や世論の反発が予想される「共謀罪」新法案の提出は見送ることにしたようです。

報道によれば、自民、公明両党の幹事長と国会対策委員長は16日午前、都内のホテルで会談し、方針を確認し、竹下亘国対委員長は記者団に「（臨時国会には）出さない方向」と語りました。

前日の15日には、与党幹部は改正案について「TPPと同時並行では審議できない」と語っていました。公明党は臨時国会への提出に慎重で、自民党の二階俊博幹事長も「早く決着を付けたほうがいいが、慎重にやるのが基本姿勢だ」と公明党に配慮する姿勢を示していました。

各地のとくくみ

石川憲法会議、結成50年目の総会開催、「運動を広げよう」と誓い合う!

石川憲法会議は6日、金沢市内で2016年度の総会を開催しました。代表委員の前田達男金沢大学教授は開会あいさつで、自民党の憲法改悪の動きに対し、「自民は野党に対案を出せというが、憲法を変えないは、立派な対案だ」と述べました。

板坂洋介事務局長が報告を行い、「今年は石川憲法会議結成50年、大きなたたかひの節目となる」と述べ、戦争法阻止、野党共闘など1年間の活動を振り返り「戦争法廃止と憲法改悪阻止を結び付け、戦争法を一刻も早く廃止させ、憲法を守り生かす運動を強めよう」と訴えました。

討論では、新婦人の北村順子さんは「安倍政権にレッドカードを」と、赤いものを身につけ抗議する「女性のレッドアクション」を毎月19日に行ってきたことなどを報告、学習協の西野司典さんは「いま日本国憲法を学ぶことが大事」と強調しました。

閉会あいさつは、平和委員会の柴原和美さんが「暴走する安倍政治の打倒をめざし、憲法を学び、運動の共同を広げよう」と述べました。

九条の会第6回全国交流討論集会

*開催日 9月25日(日) 午前11時～午後4時

*会場 明治大学駿河台校舎 リバティール・タワー

*次第 全体会／呼びかけ人あいさつ、事務局からの問題提起／世話人(仮称)の紹介と挨拶
休憩・朝食後 分散会(5～6)・解散

参加申し込み：各地・分野の九条の会の代表(事前登録制) 締め切り9月16日

参加分担金：1人1000円

公布70年・憲法講座「今こそ、守り生かそう! 日本国憲法」

*講座 渡辺 治 一橋大学名誉教授 ―「憲法をめぐる参院選後の情勢と課題」(仮)

*国会報告 日本共産党国会議員

とき 10月10日(月)体育の日 午前10時30分から13時00分

ところ 全国家電会館 5階講堂 資料代1000円(学生500円)

【詳細はホームページで】